

百年祭

ひたって……



「世間胸算用」序文・釈文

松の風静に初曙の若葉びすく諸商人買ての幸ひ賣ての仕合扱(さて)帳閉棚おろし納め銀の蔵びらき春のはじめの天秤大黒の打出の小槌何成(なり)

「伊勢海老は春の艳」

「世間胸算用」(二六九二年)元禄五年正月刊行より

正月の座敷には蓬菜を飾る。三方に白紙・裏白讓葉・昆布などを敷き、米・搗栗・榎・ほんだわら・串柿・橙・伊勢海老などを積み、年賀の客にもすすめる。昔は年によつて入荷が極端に少ない「年切」という事態が起こった。橙は九年母で代用するが、紅色に照り映え、めでたい正月気分をみなぎらせる伊勢海老だけは、ゆでるとくるりと

おうという年徳神は来てくださらなくてよい。」と家の主人は機嫌が悪い。内儀と息子は世間体を思うて四八八分で求めようとす。およそ六千円。が、主人はけちで買わざが張りぼての海老をつくる。「正月の祝いがすんだら、子供の玩具にもなるぞ。知恵はこんなふうに使うもの。安くあげて後の役に立つ。」と、主人のお説教。そこへ九十二歳になる主人の母親がやってくる。「いつも新年になつてから節分のある時

井原 西鶴

(二六四二〜二六九三)

江戸前期の俳諧師、浮世草子作者。大阪に生まれた町人で、本名は平山藤五。西山宗因に師事し、談林俳諧の代表作家となり矢数俳諧で有名。奔放な俳風は阿蘭陀流と呼ばれた。宗因没後、浮世草



子を述作。「好色一代男」「日本永代蔵」「世間胸算用」「武家義理物語」等、多くの名作を残し元禄六年八月十日大阪錫屋町で没した。その作品は文学的評価が高く、一九六〇年ユネスコでは、世界的偉人の一人として西鶴を選んでいる。

オクソンの音楽会のお知らせ

井原西鶴の代表作「好色五人女」の中から恋人清十郎を慕って狂乱になった「お夏の物語」をご披露いたします。

明治・大正を通じて、すこぶる独創味に富んだ名作をお楽しみ下さい。

曲目 お夏狂乱
作詞 坪内逍遙
作曲 二世 常磐津文字兵衛

三味線 常磐津小欣司

- ・関西常磐津協会理事
- ・重要無形文化財常磐津節(総合指定)

浄瑠璃 常磐津一佐太夫

- ・関西常磐津協会理事

常磐津小欣司による解説でお送り致します。

期間 2月22日(月)～2月27日(土)

料金 ¥17,000(税、サ、飲物は別)

お食事時間 PM6:00～

演奏時間 PM8:00～PM9:00

特別コースの為、ご予約をお早めに…

お待ち致しております。